

神戸大学校友会ニュースレター

いつも校友会の活動にご支援ご協力いただきありがとうございます。

— インフォメーション —

【1】トピックス

- (1) 「神戸大学学友会支部」から「神戸大学校友会支部」へ
- (2) 神戸大学学友会ニュースレターは神戸大学校友会として継続配信
- (3) 校友会支部活動等の情報提供について
- (4) 文部科学省「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」の採択及び『バイオものづくり共創拠点』の整備について
- (5) デトロイト支部からの活動報告

【2】お知らせ

- (1) 令和5年度神戸大学スキルアップ研修「未来洞察・アイデアソン（デザイン思考）職員研修」を開催
- (2) 文部科学省研究拠点形成費等補助金 がんプロフェッショナル養成 第4期「阪神5大学サステナブルがん人材養成プラン」が始動
- (3) 学術研究推進機構 異分野共創研究報告会を開催
- (4) 神戸大学-株式会社浪花昆布「佃真」産学連携による『はりまるチップス』を発売
- (5) 2023年版「神戸大学環境報告書」を公表
- (6) 第3回先端バイオ工学研究センター成果発表会
～若手が創る次世代の先端バイオ工学～ を開催
- (7) 信用格付けを更新

【3】研究ニュース

- (1) インド・パンジャール地方の稲わら焼きが起因、高レベルのPM_{2.5}がデリー首都圏へ ～高密度観測ネットワークで輸送過程を解明～
- (2) 神戸大学と出光興産「出光バイオものづくり共同研究部門」を設立 ～バイオものづくりバリューチェーン構築に向け、スマートセルの開発を加速～
- (3) 膠原病患者の動脈血栓症に「抗β2GPI・ネオセルフ抗体」が関連することを

発見

- (4) 飛べない昆虫「ナナフシ」の長距離分散の痕跡を遺伝解析で発見
～鳥の摂食による移動は頻繁に起こっていた!?～
- (5) 三畳紀の「雨の時代」と海洋の生物絶滅
～日本の地層から絶滅の原因を解明～

【4】受賞・受章

- (1) 国際文化学研究科 下條尚志准教授が「IBP (ICAS Book Prize) 2023 Japanese Language Editon」を受賞

【5】イベント等情報

- (1) イベント情報

【1】トピックス

(1) 「神戸大学学友会支部」から「神戸大学校友会支部」へ

令和5年9月27日の神戸大学学友会支部へのメールでもお知らせしましたように、令和5年9月30日付けで神戸大学学友会が解散となりました。

令和4年12月25日に発足した神戸大学校友会は、卒業生（含留学生）をはじめ、在学生（含院生・留学生）、大学の教職員（含退職教職員）、さらには学生のご家族の方を含めた、神戸大学にゆかりのある関係者（Family）が一体となって交流し結束を強め、神戸大学の 研究・教育・国際交流・社会貢献活動を「One Kobe Family」として支援し、大学の発展とプレゼンス並びに ブランド価値の向上を図ることとしております。

学友会の解散に伴い、学友会支部は、校友会の支部として引き継がれています。今後とも、校友会支部として、同窓会活動にご協力いただきますようお願いいたします。

○校友会については、こちらをご覧ください。

(<https://www.org.kobe-u.ac.jp/ku-alumni/>)

(2) 神戸大学学友会ニュースレターは神戸大学校友会として継続配信

神戸大学学友会は解散いたしました。引き続き、神戸大学校友会ニュースレターとして情報発信していきます。今回は、校友会ニュースレターの第一号の配信となります。

(3) 校友会支部活動等の情報提供について

令和5年7月5日に神戸大学校友会役員総会が開催され、「神戸大学校友会支部の設置及び廃止並びに運営等に関する基準」が制定されました。

その中の第7条として、支部活動の広報等について記載しております。具体的には、第7条第1項で支部活動の事前報告、第2項で活動実施費報告を規定しており、第3項では、それぞれについて校友会ホームページ等で広報活動を行う旨を記載しております。各支部におかれましては、支部活動等の行事がありましたら情報提供いただきたくお願いします。

それぞれの様式は以下のホームページからダウンロードできます。

○詳細は、こちらをご覧ください。

(https://www.org.kobe-u.ac.jp/ku-alumni/shibu_kijyun.html)

(4) 文部科学省「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」の採択及び『バイオものづくり共創拠点』の整備について

神戸大学は、文部科学省が地域中核・特色ある研究大学に対し、強みや特色ある研究、社会実装の拠点等を核とした研究力の向上戦略の実行に必要な施設整備を支援する「地域中核・特色ある研究大学の連携による産学官連携・共同研究の施設整備事業」（令和4年度第2次補正予算）に申請し、令和5年4月21日に採択されました。

本学の申請事業は、神戸医療産業都市においてバイオ生産工学等にデジタル技術を融合させたバイオものづくり領域のオープンイノベーションやインキュベーションを促進するための施設を整備するものであり、この施設の建設地として、新たにポートアイランド地区に用地を取得するための公募手続きを行い、令和5年10月10日付けで正式に神戸市と土地売買契約を締結するに至りました。今後は施設整備に向けた工事を本格化して参ります。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2023_10_10_01.html)

(5) デトロイト支部からの活動報告

日時：2023年10月8日（日）

場所：Granite City Food & Brewery restaurant, Northville, Michigan

2020年の3月まで当地に駐在されていた伊吹 正紀氏（1986 工学部院卒）が米国・メキシコへの出張業務で当地を訪問された初日に夕食会を持ちました。過去3年半を日本で過ごされた氏を交えて、多くの話題が飛び交い、最新の日本の社会情勢を学べる絶好の機会でした。話題の一部は以下の通りです。

来年の米国大統領選挙の候補者の年齢が高いが、高齢化の進む日本社会で

も Leadership に老害が見られる。

終身雇用制度は、生産性を上げるためのアイデアを出せない、出さないなど、日本企業文化の陋習である。

コロナ規制が完全になくなった日本と異なり、米国の（子）会社では浸透した在宅勤務制度に加えて、単身赴任や終身雇用などの日本文化が、生産性を上げにくい環境を作っている。

日本では女性の登用が進まないが、業務範囲が広がる道が開けている総合職と地域限定型の一般職とで、一般職を選ぶ女性が多いことなど、日本文化そのものに起因している。

日本で活躍されている法学部卒の映画監督安田 真奈氏が先週 California の Hollywood を訪問されていて、米国の映画界でも脚光を浴びそう。

インドネシアが首都を Jakarta から Kalimantan 島の新都市に移すことについて、人口密集による交通渋滞が悪化の一途を辿るばかりであることが理由として挙げられている。メルセデスや BMW に乗っていてもインフラが整っていないとその性能は発揮できない。ドイツ車は autobahn で 240km/h を出してもまったく揺れず、驚くほど安定しているが、制限速度がせいぜい 120km/h の米国やそれにも及ばない日本では、ドイツ車と非ドイツ車との間で走行感に大して差が出ない。潜在能力を伸ばしたり、性能を十二分に発揮するには、インフラの整った環境に出ないといけないというのは、車だけでなく、人間も同じ。

Detroit では、翌週末に国際マラソン参加予定の会員もいて、年齢別の入賞が期待できるのではとのこと。

卒業生・現役生を問わず、ミシガン州を訪問される機会があれば歓迎いたしますので、ぜひ、ご連絡ください。



参加者：宮脇 佑輔（2010 工学）
Hamed Torjani（2003 院・工学）
瀬川 恵（1992 教育）
伊吹 正紀（1986 院・工学）
山田 守（1982 経営）

【2】お知らせ

（1）令和5年度神戸大学スキルアップ研修「未来洞察・アイデアソン（デザイン思考）職員研修」を開催

8月22日、8月28日、9月5日午後の3日間、令和5年度神戸大学スキルアップ研修「未来洞察・アイデアソン（デザイン思考）職員研修」を本学 V.School において開催しました。

本研修は、課題設定を行う「未来洞察プログラム」と、課題解決のためのアイデア創出を実現する「アイデアソン」を掛け合わせたワークショップを実施し、職員の創造性を向上させ、課題解決や新たな価値を見出す手法を学ぶことを目的に、一昨年度より実施しているものです。多様な視点を加える観点から、今年度から初めて神戸市職員にも参加いただき、本学の学生も加え、本学職員と一緒に課題に取り組む形式で行いました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2023_09_25_02.html)

（2）文部科学省研究拠点形成費等補助金 がんプロフェッショナル養成 第4期「阪神5大学サステナブルがん人材養成プラン」が始動

近畿大学、大阪公立大学、関西医科大学、神戸大学、兵庫医科大学の5大学

は、がん専門医療人を養成するため、事業推進代表の近畿大学を中心として、第4期「阪神5大学サステナブルがん人材養成プラン」を始動させます。

○詳細は、こちらをご覧ください。

(https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2023_09_26_01.html)

(3) 学術研究推進機構 異分野共創研究報告会を開催

9月13日に農学研究科 C101 講義室にて、学術研究推進機構異分野共創研究報告会を開催しました。

学術研究推進機構先端的異分野共創研究推進室および異分野共創研究企画・創出委員会では、本学のフラッグシップ研究となり得る異分野共創研究の創出及び育成に取り組んでおり、現在2件の先端的異分野共創研究プロジェクトと、12件の異分野共創研究ユニットを支援しています。

今回の報告会では、先端的プロジェクトおよび研究ユニットのリーダーやメンバーから、活動の進捗状況や今後の展望について、プレゼンテーションをしていただきました。

会場には、藤澤学長、河端理事（研究・社会共創・イノベーション担当）、喜多副学長（研究・社会共創・イノベーション担当）に加え、推進室・委員会関係者や学内教職員など計44名が来場しました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2023_09_27_01.html)

(4) 神戸大学-株式会社浪花昆布「佃真」産学連携による『はりまるチップス』を発売

神戸大学と株式会社浪花昆布は、共同で商品開発した『はりまるチップス』

を発売しました。

神戸大学大学院農学研究科附属食資源教育研究センターで学生実習材料として栽培されたじゃがいもと佃真の調味塩「だししお」を使用した、産学連携コラボ商品です。

じゃがいもは、「はりまる」、「シャドークイーン」、「ノーザンルビー」の3品種を使っています。

「はりまる」がイエロー、「シャドークイーン」がパープル、「ノーザンルビー」がピンクとカラフルで写真映えします。

味付けには「だししお」のみを使用し、パリッとした食感とあっさりした味付けになっています。

本商品は、神戸大学生協や佃真六甲本店、御影店等で販売中です。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2023_09_28_02.html)

(5) 2023年版「神戸大学環境報告書」を公表

2023年版の神戸大学環境報告書を公表しました。この環境報告書は、2022年4月から2023年3月の神戸大学の環境に関する活動の成果を取りまとめたもので、本学の構成員である学生と教職員を対象に、学内および学外の環境コミュニケーションを促進することを目的として、本学で行った教育、研究およびトピックスを紹介するとともに、環境パフォーマンスとして、環境マネジメントを推進するための取り組み等を掲載しています。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2023_09_28_01.html)

(6) 第3回先端バイオ工学研究センター成果発表会

～若手が創る次世代の先端バイオ工学～ を開催

9月29日、第3回神戸大学先端バイオ工学研究センター成果発表会～若手が創る次世代の先端バイオ工学～（主催：神戸大学先端バイオ工学研究センター、共催：一般社団法人先端バイオ工学推進機構、一般社団法人バイオリジクス研究・トレーニングセンター）を開催しました。

発表会は蓮沼誠久センター長の開会挨拶の後、5件の口頭発表が行われ、若手研究者による最先端の研究状況が披露されるとともに活発な質疑応答が行われました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2023_10_06_01.html)

(7) 信用格付けを更新

神戸大学は、株式会社格付投資情報センター（R&I）及び株式会社日本格付研究所（JCR）より、信用格付を取得しています。

外部の評価機関から経営状況に対する客観的な評価を得ることにより、経営の透明性と信用力を高め、多様な資金調達の手段を確保することを目的として、信用格付を取得しています。

「知と人を創る異分野共創研究教育グローバル拠点」として持続的な成長・発展を果たせるよう、ステークホルダーと対話を重ね、ガバナンス体制と財務基盤の強化を進めていきます。

○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/info/public-info/rating/index.html>)

【3】研究ニュース

- (1) インド・パンジャブ地方の稲わら焼きが起因、高レベルのPM2.5がデリー首都圏へ ～高密度観測ネットワークで輸送過程を解明～

総合地球環境学研究所（地球研）を中心とした国内外の大学等の国際的な研究者チームが、29台の安価で正確な小型センサで構築した高密度観測ネットワークにより、インド北西部の大気汚染状況を初めて定量化しました。その結果、発生源を含むネットワーク観測が、農業残渣燃焼が地域や複数州にまたがるスケールの大気汚染に及ぼす影響の理解に有益であることを示しました。

神戸大学からは、神戸大学大学院海事科学研究科の山地 一代准教授が、本プロジェクトに参加し、大気中の物質の排出量推計や数値実験や解析などを通して本成果に貢献しています。



写真1：パンジャブ地方の稲わら焼きの例

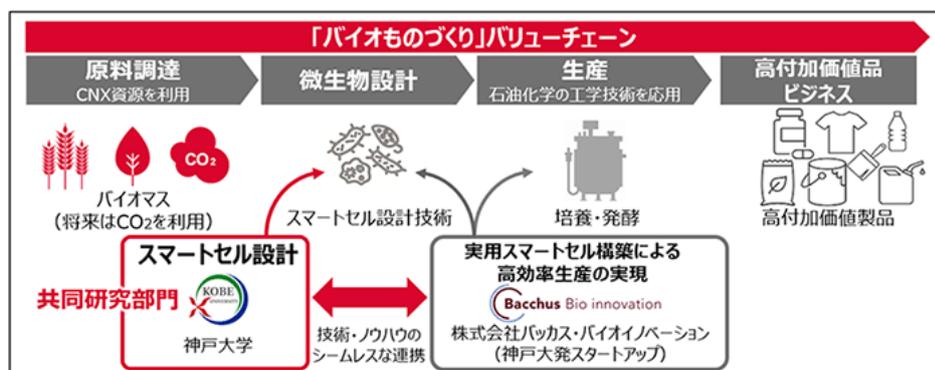
(2018年11月4日撮影、林田佐智子)

○詳細は、こちらをご覧ください。

(https://www.kobe-u.ac.jp/research_at_kobe/NEWS/news/2023_10_02_01.html)

- (2) 神戸大学と出光興産「出光バイオものづくり共同研究部門」を設立 ～バイオものづくりバリューチェーン構築に向け、スマートセルの開発を加速～

神戸大学先端バイオ工学研究センターと出光興産株式会社は、バイオものづくりバリューチェーンの構築に向け、「出光バイオものづくり共同研究部門」を設立しました。10月1日に設立した当共同研究部門では、バイオ燃料、バイオ化学品、バイオ農薬などを製造するスマートセルの開発に取り組めます。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(https://www.kobe-u.ac.jp/research_at_kobe/NEWS/collaborations/2023_10_03_01.html)

(3) 膠原病患者の動脈血栓症に「抗 β 2GPI・ネオセルフ抗体」が関連することを発見

神戸大学大学院医学研究科の米田 勝彦大学院生、上田 洋助教、三枝 淳准教授（免疫内科学／膠原病リウマチ内科）は、神戸大学医学部附属病院の谷村 憲司特命教授（産科婦人科学分野産科生殖医学部門）、大阪大学免疫学フロンティア研究センターの荒瀬 尚教授（免疫化学研究室）、手稲溪仁会病院不育症センター長の山田 秀人らとの共同研究により、血液中の抗 β 2GPI・ネオセルフ抗体が、膠原病の女性患者さんにおける動脈血栓症に関連することを発見しました。

今後、動脈血栓症の発症メカニズムの解明や、膠原病患者さんの血栓症の予防法の開発につながることを期待されます。

○詳細は、こちらをご覧ください。

(https://www.kobe-u.ac.jp/research_at_kobe/NEWS/news/2023_10_10_01.html)

(4) 飛べない昆虫「ナナフシ」の長距離分散の痕跡を遺伝解析で発見
～鳥の摂食による移動は頻繁に起こっていた!?～

神戸大学大学院理学研究科の末次 健司教授（兼 神戸大学高等学術研究院卓越教授）および福島大学共生システム理工学類の兼子 伸吾准教授らの研究グループは、ナナフシモドキの全国的な遺伝構造を調査し、その遺伝子型の分布パターンに、鳥による長距離分散の痕跡が残っていることを強く示唆する研究結果を得ました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(https://www.kobe-u.ac.jp/research_at_kobe/NEWS/news/2023_10_11_01.html)

(5) 三畳紀の「雨の時代」と海洋の生物絶滅

～日本の地層から絶滅の原因を解明～

高温で乾燥していた時代として知られる三畳紀（約 2 億 5190 万年～2 億 130 万年前）には、約 200 万年にわたって降雨量が劇的に増加した「雨の時代」があったことが知られています。「カーニアン多雨事象」と呼ばれるこの出来事は、陸上で哺乳類の出現や恐竜の多様化を導いたと考えられる一方、海ではアンモナイトやコノドントといった海洋生物の絶滅原因となった可能性が指摘されています。九州大学大学院理学研究院の冨松 由希助教、佐藤 峰南助教、尾上 哲治教授、海洋研究開発機構の野崎 達生グループリーダー代理（神戸大学大学院理学研究科客員准教授）、東京大学大学院工学系研究科システム創成学専攻の高谷 雄太郎准教授らの共同研究グループは、神戸大学、早稲田大学と共同し、大規模な火山活動が引き金となりカーニアン多雨事象が起こったことを明らかにしました。さらに本研究から、この火山活動の末期に発生した海洋の無酸素化が、海洋生物を絶滅に導いた可能性が示されました。カーニアン多雨事象の期間に海洋生物が絶滅したことは知られていましたが、その原因については分かっていませんでした。

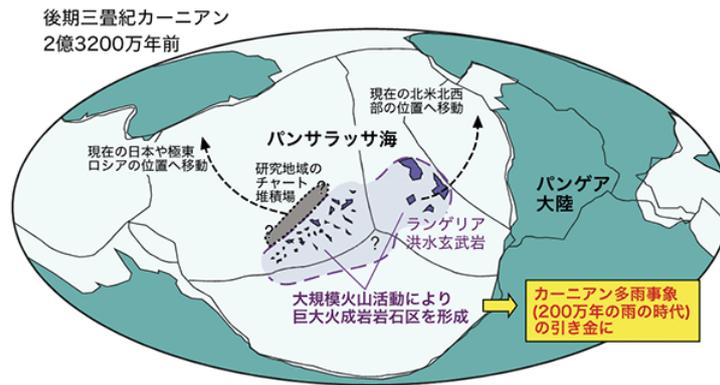


図2. 後期三畳紀カーニアン地球の姿

超海洋パンサラッサ海において大規模な火山活動が起こり、これが引き金となりカーニアン多雨事象が誘発された。このとき噴出した大量の玄武岩の岩体は、海洋プレートの移動により分裂し、現在は日本、極東ロシア、北米北西部などに分布している。グレーで囲った領域は本研究で対象とした研究地域のチャートの堆積場を示す。

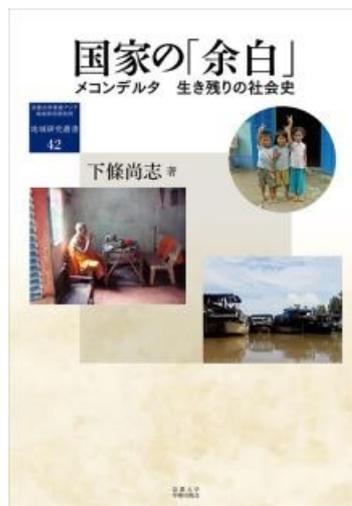
○詳細は、こちらをご覧ください。

(https://www.kobe-u.ac.jp/research_at_kobe/NEWS/news/2023_10_11_02.html)

【4】受賞・受章

(1) 国際文化科学研究科下條 尚志准教授が「IBP (ICAS Book Prize) 2023 Japanese Language Editon」を受賞

神戸大学大学院国際文化科学研究科の下條 尚志准教授が『国家の「余白」—メコンデルタ生き残りの社会史』(京都大学学術出版会、2021年)により、ICAS (International Convension of Asia Scholars) 主催の IBP (ICAS Book Prize) 2023 Japanese Language Editon を受賞しました。



○詳細は、こちらをご覧ください。

(https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/info/2023_10_04_01.html)

【5】 イベント等情報

(1) イベント情報

令和5年度のイベント等を以下のページに記載しております。

○詳細は、こちらをご覧ください。

(<https://www.kobe-u.ac.jp/NEWS/event/index.html>)

★「KU-Net」からのお知らせ

「神戸大学コミュニティネットワーク(KU-Net)」をリニューアルし公開しております。

従来からの、「OB・OG 訪問」の機能に加え、「卒業生からのメッセージ」や「在学生の今」の掲載をしております。また、卒業生等が開催するイベントへの参加申し込み機能も追加しました。

詳しくは、神戸大学コミュニティネットワークホームページ
(<https://www.office.kobe-u.ac.jp/alumni-ku-net/>)でお知らせしています。

また、KU-Net の説明動画を YouTube にアップしておりますので併せてご覧ください。

(<https://youtu.be/ZqHCVW0VsuU>)

是非ご登録ください。

★神戸大学校友会ホームページ

<https://www.org.kobe-u.ac.jp/ku-alumni/>

■支部所属の会員の皆様にもお知らせください

神戸大学校友会事務局

657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1

神戸大学企画部卒業生・基金課内

TEL 078-803-5042 FAX 078-803-5024

E-mail: plan-ku-alumni@office.kobe-u.ac.jp